

「生涯学習」と「福祉」が、生きているまち、川崎。

総合計画に夢を寄せて、

総合計画の長期計画には、綺麗な言葉の羅列ではなく、生身の市民が感動する普遍的な理念を謳うことを期待する。

その1) 市民大多数の気持ち、自治体政策に通じていない。より良い施策を講ずるためには、市民参加を促し、市民にとってより明るく、より楽しく、より魅力的な行政にならなければいけない。

その2) 行政の都合に合う市民だけを呼びかけてはいないか。行政施策を後に承認するために市民活動を操ってはいないか。市民同士の不信を利用して、行政主導を担っているのではないかを自問する時だ。

その3) 首長や担当職員が変わると、仕事もコロリと変わる。曖昧で綺麗な政治言葉は、人によって、都合によって、解釈も変わる。市民施策は、誰もが分かるような明確かつ普遍的な理念に基づいて行われ、誰もが将来の設計ができ、安心して暮らすようにすべきだ。

長・短期の計画の提案したいこと

1) 外国人市民施策について

長期計画の理念として：外国人は、税金徴収の時だけが市民であり、福祉の対象では国籍差別をされる。「社会福祉とは、人権擁護と世界平和を思想的な基盤としつつ、人々の生活の安定を確保する施策や事業・活動を総称する制度、および活動である。」今回の総合計画には、福祉の対象の「人々」の定義には、国籍差別を無くし、外国人も確かな川崎市の市民であり、全ての福祉の対象者であることを明文化すべきだ。

短期計画の実現例として：川崎市では全国に先がけて、「外国人市民代表会議」を条例化した。より一歩踏み出して、外国人市民の常設事務局を設けて、「外国人の110番(外国人市民局)」のような役割を果たすような場を設けてほしい。外国人市民が社会的に貢献できる様々な分野がたくさんある。それを制度的に吸収する中枢的で総合的な受け皿がないことは残念だ。

新たに来日する外国人に適切な情報を伝達したり、相談する場。

地域活動やボランティアなどのコーディネーター役。

公共サービスの多言語対応の翻訳・通訳。

地域の学校の「国際ふれあい事業」の講師として活動。

人によっては高齢になるにつれ、成人になって学習した第2言語を忘れ、母語しか使えなくなる現象がある。今後外国人市民が増えることを想定すれば、母語で介護をうける設備も必要になる。外国人市民が介護ヘルパー資格を取得することを支援することも今後の検討課題だ。

外国人市民との交流

異文化・多言語を理解する講座の企画
国柄を生かす仕事で日本の国際化に貢献
外国人職員を必要とする企業への貢献。

このようなことを統括できる担当局ができれば、外国人の自立と共に、日本社会で貢献も目覚ましいことであろう。

2) 子ども施策について

長期計画の理念として：ジャン・ジャルク・ルソーは、子どもは「小さな大人」「未完成的な大人」ではないと言い、子どもらしく生きる権利があると言っている。自治体は、子どもらしく生きる環境を積極的に作るのは急務である。

短期的な実現例として：児童虐待の通報システムの改善を急ぐことだ。虐待の疑いがある場合、通報した場合、あとプライバシー侵害などで逆に訴えられることを恐れ、直ちに通報できないことがよくある。そのため、多くの子どもが命を落とす悲劇が起きる。日本の法律は通報義務の規定だけがあるが、「免責特権(責任を免状される特権)」は保障されていない。これは一個人がいくらがんばっても限界があるということだ。自治体は法律改定を働きかけることと共に、法律が改定されるまで、自治体とNGOなどの市民団体が、共に具体的な対応策を工夫すべき懸案だと思われる。

福祉理念と生涯学習の相関関係について、

ヨーロッパ諸国が、豊かな暮らしを送っている理由が何かと長年疑問に思ってきた。裕福な生活には、必ず充実した教育が生きている。彼らは生涯に渡って、一所懸命に学習をしていることに気がついた。日本はお金があるのに、なぜ、豊かではないのか。法律と制度の実際の運用とその理念がかけ離れている。「限られた地球の資源の中で、人類が継続的に生存するための社会創り」を前提にした時、その基本を成す人間の行動力は、教育によって育成される。福祉諸国家は、教育の機会均等が徹底されていて、資格と能力を身につける機会が保障されている。

日本の景気が低迷し続ける中、目に見える成果がない高コストの福祉や教育分野が、削られている。日本は、諸国家の流行政策を追いかけるばかりで、自分の固有の良さをあまり開発しない。良い制度や素晴らしい理念があっても、それについていけない市民がいるなら、運用と理念の距離は近づかない。川崎市民が長年蓄積してきた知恵を元にした川崎らしく、川崎に相応しい施策を創り出し、分かりやすい福祉政策を立てればと切実に思う。社会福祉は、人間性と共に高い専門性が要求される分野だ。豊かな人間性を育むことも、高い専門性を育てることも、言うまでもなく生涯学習によって実現できる関係である。

生涯学習と社会福祉は、人間らしく生き、自立するため基盤となるものだ。また、一個人ががんばるからできることでもない。公共の制度や基盤の保障の上で成される。「アフガニスタンで、今一番必要なものは何ですか」という問いに、「それは教育です。子どもにも、大人にも」と、ある映画監督が言っていた。生涯の学習を通じて、福祉 = 幸いを地上にとどめることができるだろう。